

第1章 統計区別人口

1 人口

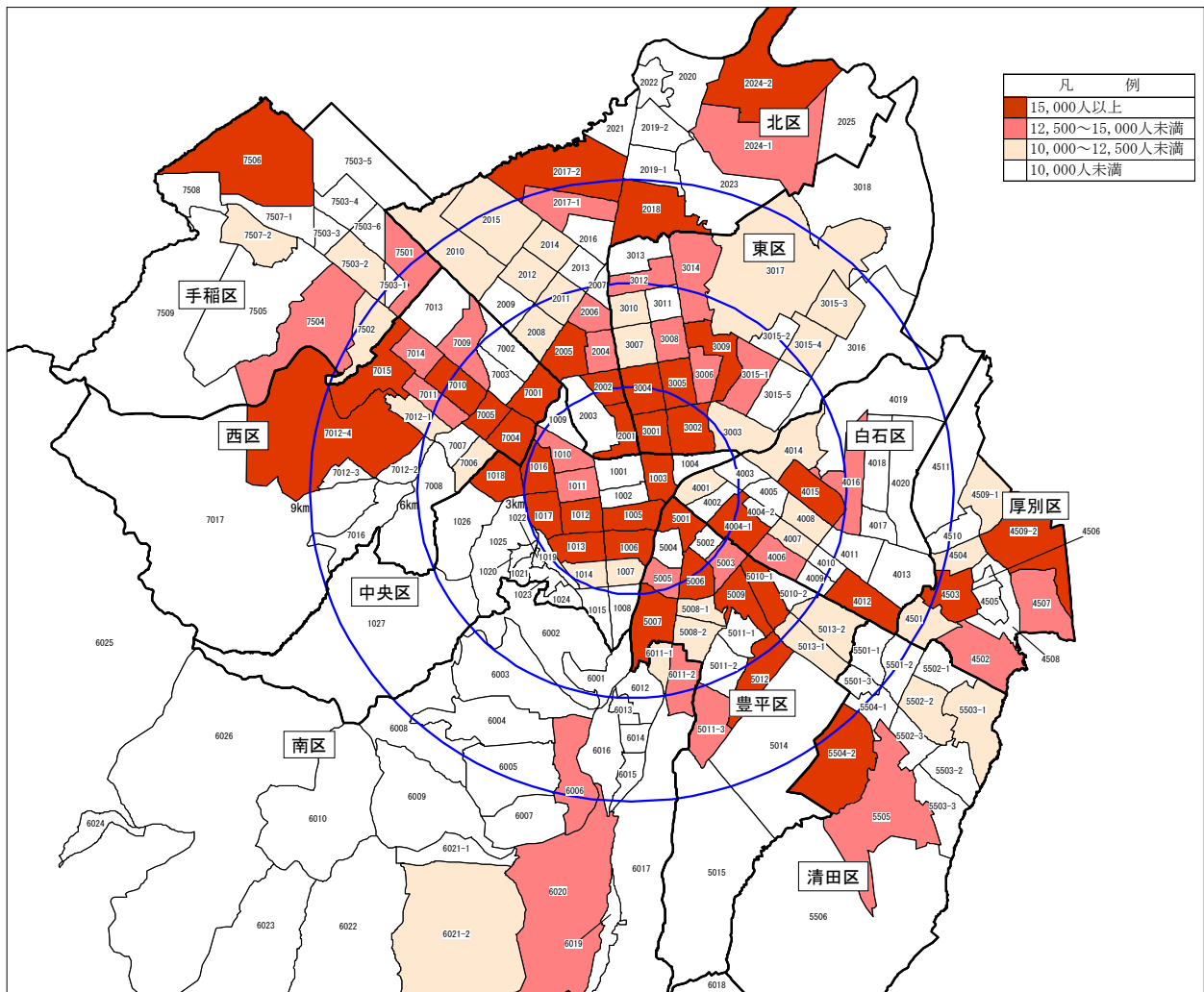
令和2年10月1日現在、白石区の4004-1統計区（東札幌、中央）が23,320人で最も多い（第1-1表、第1-1図）

令和2年10月1日現在で実施された国勢調査結果によると、札幌市の人口は1,973,395人となっている。これを全市を206に分けた統計区（準統計区を含む。）別にみると、人口15,000人以上の統計区は38統計区、10,000～15,000人未満の統計区は61統計区、5,000～10,000人未満の統計区は58統計区、5,000人未満の統計区は49統計区（人口が皆無の3統計区を含む。）となっている。

統計区別の人口をみると、白石区の4004-1統計区（東札幌、中央）が23,320人で最も多く、以下、白石区の4012統計区（栄通、南郷通、本通南）が22,349人、中央区の1017統計区（南円山地区、円山地区）が20,151人となっており、人口が2万人以上の統計区はこれら3統計区のみである。

人口の多い上位15統計区に注目すると、手稲区の7506統計区（曙、星置、明日風、手稲山口）は、平成27年時点では20位だったが令和2年では12位、中央区の1003統計区（東北地区、東地区）は平成27年時点では35位だったが令和2年では15位となっており、それぞれ順位が大きく上昇している。

第1-1図 統計区別人口分布（令和2年10月1日現在）



注： 人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第1-1表 令和2年現在の順位による人口の多い統計区

各年10月1日現在

順位 1)	統計区番号及び主な地区・町名	人口	
		平成27年	令和2年
1 (1)	4004-1 白) 東札幌、中央	22,807	23,320
2 (2)	4012 白) 栄通、南郷通、本通南	21,366	22,349
3 (5)	1017 中) 南円山地区、円山地区	19,187	20,151
4 (3)	2024-2 北) あいの里、篠路町拓北	19,592	19,766
5 (7)	1016 中) 円山地区、桑園地区	18,094	19,637
6 (4)	4503 厚) 厚別南、厚別中央、大谷地東	19,218	19,203
7 (10)	5006 豊) 豊平、美園、平岸	17,788	18,971
8 (9)	7005 西) 琴似	17,970	18,891
9 (11)	7010 西) 発寒	17,687	18,773
10 (8)	1012 中) 大通地区、西地区	18,042	18,732
11 (6)	5504-2 清) 清田	18,969	18,157
12 (20)	7506 手) 曙、星置、明日風、手稲山口	16,419	17,633
13 (14)	1013 中) 曙地区、幌西地区	17,255	17,563
14 (15)	2018 北) 太平、篠路町太平、百合が原、百合が原公園	17,234	17,431
15 (35)	1003 中) 東北地区、東地区	15,223	17,394

注：1) () 内は平成27年時点の順位。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第1-2表 人口増加数の多い統計区及び少ない統計区（平成27年～令和2年）

順位	人口増加数の多い統計区		順位	人口増加数の少ない統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	増加数		統計区番号及び主な地区・町名	増加数
1	3016 東) 東雁来、東雁来町	2,404	1	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	△ 1,464
2	1003 中) 東北地区、東地区	2,171	2	3015-5 東) 東苗穂、本町	△ 1,153
3	1016 中) 円山地区、桑園地区	1,543	3	5503-2 清) 里塚	△ 936
4	3001 東) 鉄東地区、北光地区	1,510	4	5504-2 清) 清田	△ 812
5	7506 手) 曙、星置、明日風、手稲山口	1,214	5	6006 南) 川沿、川沿町	△ 789
6	5006 豊) 豊平、美園、平岸	1,183	6	4014 白) 菊水元町、米里	△ 737
7	7010 西) 発寒	1,086	7	6005 南) 南沢	△ 717
8	1011 中) 大通地区、桑園地区	1,019	8	6021-2 南) 藤野	△ 673
9	1006 中) 豊水地区、曙地区	1,000	9	6014 南) 真駒内上町・緑町	△ 671
10	4012 白) 栄通、南郷通、本通南	983	10	5505 清) 真栄、美しが丘	△ 605
11	1017 中) 南円山地区、円山地区	964	11	4509-2 厚) 厚別東、厚別町下野幌、 下野幌テノパーク、厚別町小野幌	△ 603
12	3005 東) 北光地区、北栄地区	929	12	4502 厚) 厚別南、上野幌、厚別町上野幌	△ 594
13	7005 西) 琴似	921	13	6020 南) 真駒内南町、石山、石山東、 芸術の森	△ 528
14	2002 北) 幌北地区	912	14	3015-1 東) 伏古、本町	△ 495
15	4001 白) 菊水	890	15	6003 南) 北ノ沢、川沿	△ 488

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

平成27年～令和2年で、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）と中央区の1003統計区（東北地区、東地区）で2千人を超える人口増加（第1-2表）

平成27年～令和2年にかけての人口増加数を統計区別にみると、人口が増加している統計区は101統計区、横ばいまたは減少している統計区は105統計区（人口が皆無の3統計区を含む。）となっている。

人口が増加している統計区をみると、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）が2,404人増と最も大きく増加し、次いで、中央区の1003統計区（東北地区、東地区）が2,171人増となっており、これらの統計区では人口増加数が2千人を超えている。続いて、中央区の1016統計区（円山地区、桑園地区）が1,543人増となっている。

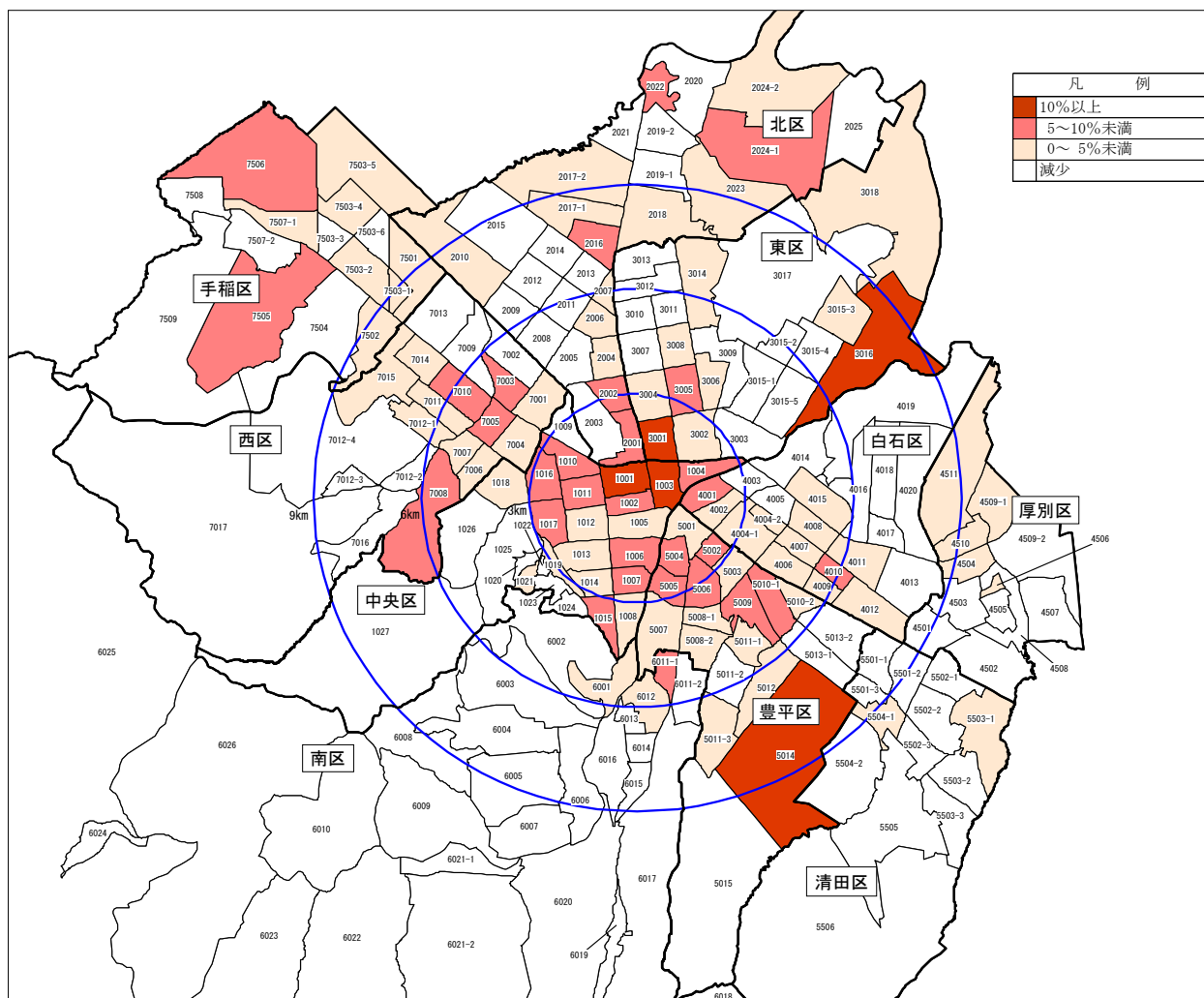
一方、人口が減少している統計区をみると、厚別区の4507統計区（もみじ台東・西・南・北）が1,464人減と最も大きく減少し、次いで、東区の3015-5統計区（東苗穂、本町）が1,153人減となっており、これらの統計区では1千人を超える人口減少となっている。続いて、清田区の5503-2統計区（里塚）が936人減となっている。

人口増加率は、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）が34.1%増で最も高い（第1-3表、第1-2図）

令和2年10月1日現在の人口が1,000人以上の統計区について、平成27年～令和2年にかけての人口増加率をみると、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）が34.1%増で3割を超えて最も高く、以下、中央区の1001統計区（中央地区）が19.2%増、中央区の1003統計区（東北地区、東地区）が14.3%増、東区の3001統計区（鉄東地区、北光地区）が10.3%増と、人口増加率が1割を超える統計区はこれら4統計区となっている。人口増加率が高い統計区は、都心（中央区南1条西4丁目交差点）から3km未満の地域に多い傾向となっているが、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）や手稲区の7506統計区（曙、星置、明日風、手稲山口）など都心から離れた地域にもみられる。

一方、増加率の低い統計区をみると、南区の6024統計区（定山溪温泉東、定山溪温泉西）が23.4%減と最も低くなっている。以下、東区の3015-5統計区（東苗穂、本町）が11.2%減、厚別区の4507統計区（もみじ台東・西・南・北）及び南区の6014統計区（真駒内上町・緑町）が9.5%減などと続いている。人口増加率が低い上位15統計区のうち、およそ半数は南区の統計区となっている。

第1-2図 統計区別人口増加率（平成27年～令和2年）



注： 人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第1-3表 人口増加率の高い統計区及び低い統計区（平成27年～令和2年）

令和2年10月1日現在の人口が1,000人未満の統計区を除く。

(単位 %)

順位	人口増加率の高い統計区		順位	人口増加率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	増加率		統計区番号及び主な地区・町名	増加率
1	3016 東) 東雁来、東雁来町	34.1	1	6024 南) 定山溪温泉東、定山溪温泉西	△ 23.4
2	1001 中) 中央地区	19.2	2	3015-5 東) 東苗穂、本町	△ 11.2
3	1003 中) 東北地区、東地区	14.3	3	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	△ 9.5
4	3001 東) 鉄東地区、北光地区	10.3	3	6014 南) 真駒内上町・緑町	△ 9.5
5	1011 中) 大通地区、桑園地区	8.6	5	6013 南) 真駒内本町・曙町	△ 8.8
5	4001 白) 菊水	8.6	6	5503-2 清) 里塚	△ 8.6
7	1016 中) 円山地区、桑園地区	8.5	7	2003 北) 北海道大学構内	△ 8.2
8	1002 中) 本府地区	8.2	8	6022 南) 簾舞	△ 7.6
9	5004 豊) 旭町、水車町、平岸	7.8	9	6003 南) 北ノ沢、川沿	△ 7.2
10	6011-1 南) 澄川	7.7	10	1025 中) 円山西町、円山、宮ヶ丘	△ 7.1
11	1007 中) 山鼻地区	7.5	11	6005 南) 南沢	△ 7.0
12	7506 手) 曙、星置、明日風、手稲山口	7.4	12	7013 西) 発寒	△ 6.7
13	2016 北) 屯田	6.8	13	5503-3 清) 美しが丘、里塚	△ 6.1
14	5006 豊) 豊平、美園、平岸	6.7	14	6021-2 南) 藤野	△ 5.7
15	5002 豊) 豊平	6.6	15	4014 白) 菊水元町、米里	△ 5.6
			15	5502-1 清) 平岡、平岡公園東	△ 5.6

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

2 人口密度

人口密度は、西区の7005統計区(琴似)が200人/haを超え最も高い(第1-4表、第1-3図)

令和2年10月1日現在の統計区別の人口密度をみると、西区の7005統計区(琴似)が203.1人/haで200人/haを超え最も高く、以下、北区の2002統計区(幌北地区)が196.2人/ha、中央区の1017統計区(南円山地区、円山地区)が186.6人/haなどと続いている。

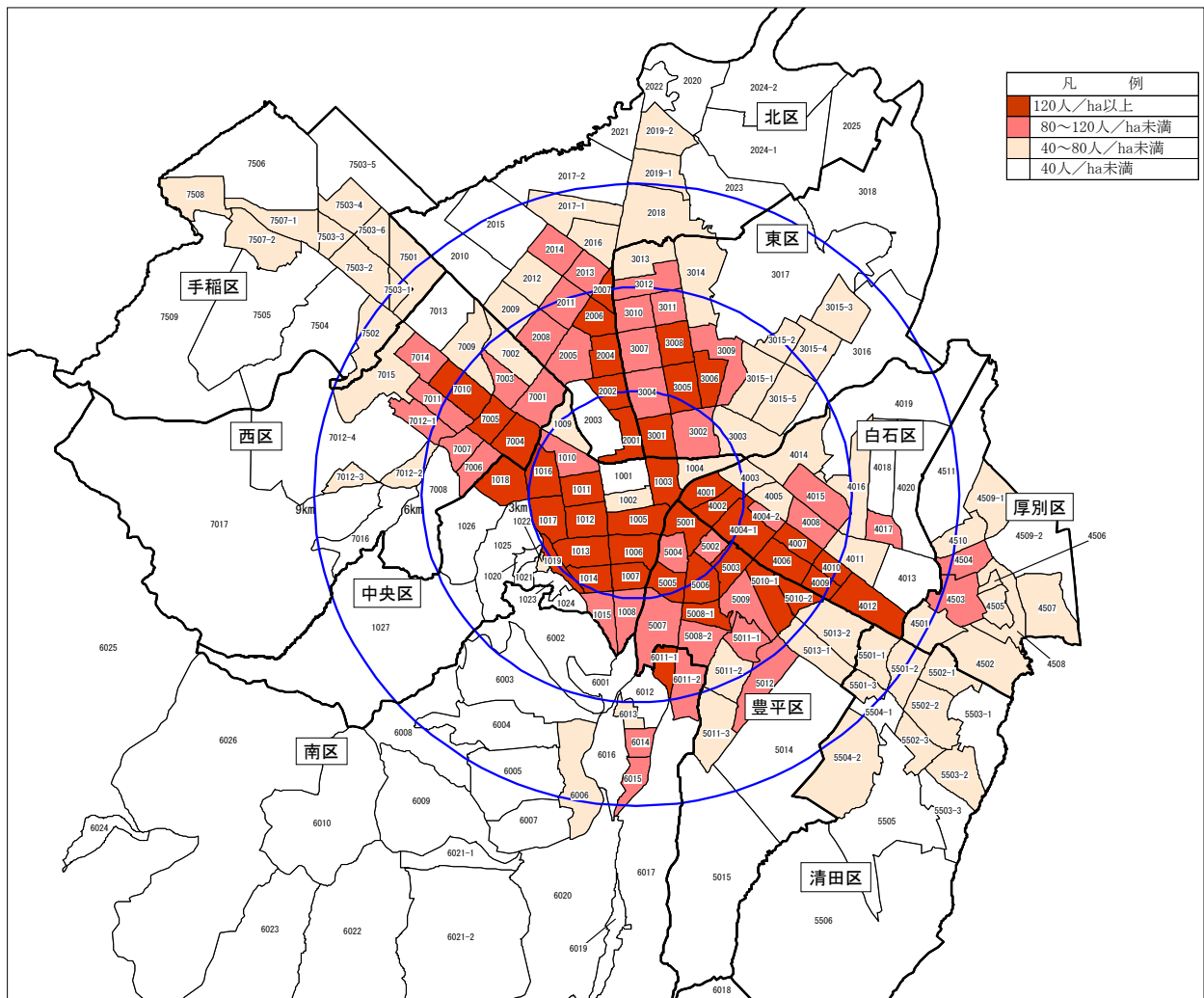
人口密度の高い統計区は、地下鉄沿線に多くなっている。

第1-4表 人口密度の高い統計区

(単位 人/ha)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	人口密度	
1	7005 西) 琴似	203.1	
2	2002 北) 幌北地区	196.2	
3	1017 中) 南円山地区、円山地区	186.6	
4	1016 中) 円山地区、桑園地区	172.3	
5	1012 中) 大通地区、西区	171.9	
6	5005 豊) 中の島、平岸	170.3	
7	5006 豊) 豊平、美園、平岸	167.9	
8	2006 北) 麻生地区	160.4	
9	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	157.1	
10	1003 中) 東北地区、東地区	156.7	
10	4010 白) 本郷通、本通南	156.7	
12	6011-1 南) 澄川	156.5	
13	5008-1 豊) 平岸	150.3	
14	5001 豊) 豊平、旭町、水車町	148.7	
15	5003 豊) 美園	144.6	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第1-3図 統計区別人口密度(令和2年10月1日現在)



注：人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

3 人口動態

(1) 人口動態

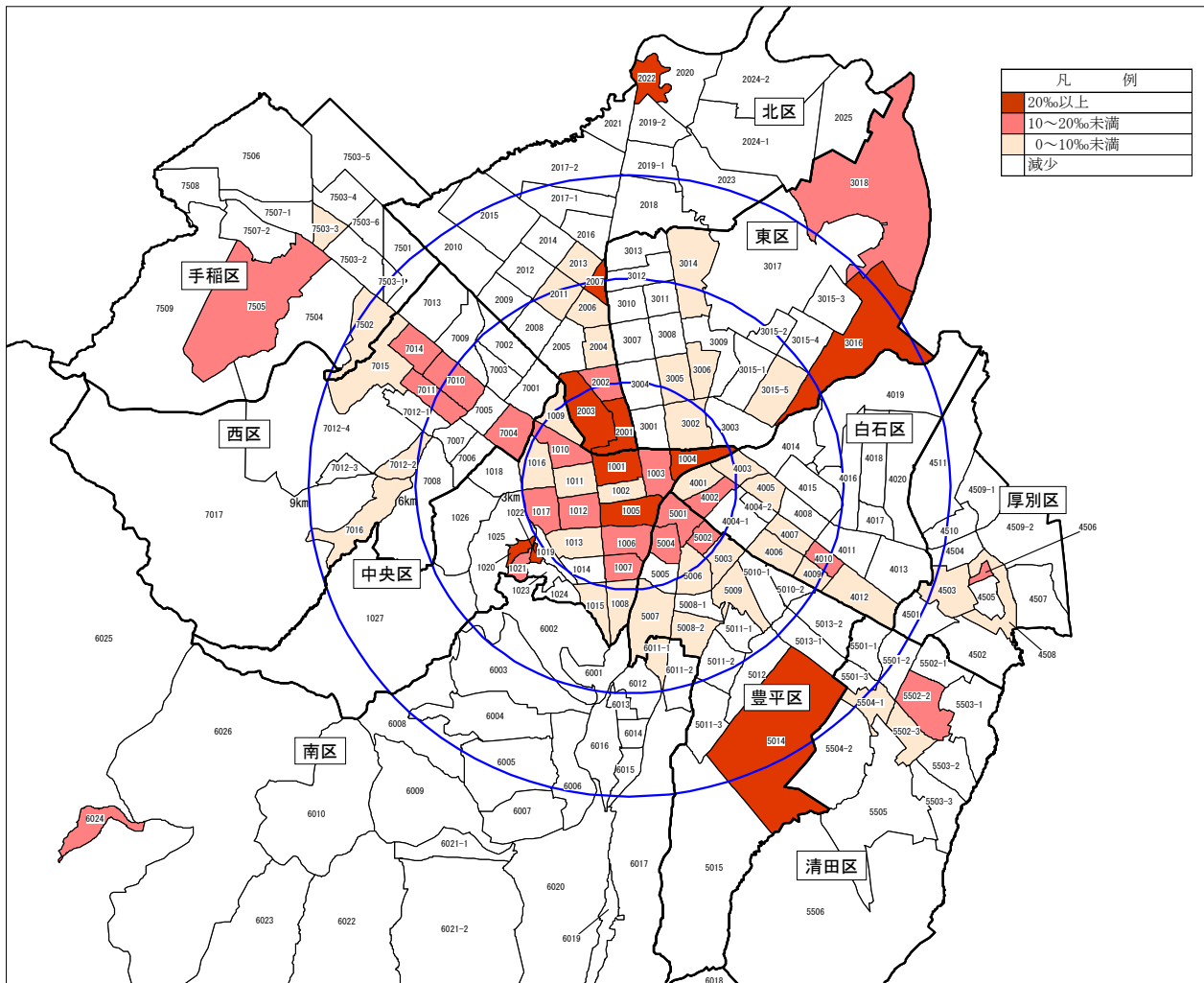
令和4年中の人口増加率が高い統計区は、都心から3km未満の地域に多い傾向（第1-5表、第1-4図）
以下では、令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人以上の統計区に注目し、4年中の人口動態を人口千人当たりの比率でみていくこととする。

まず、統計区別の人口増加率（人口千人当たりの人口増加数）が高い統計区をみると、北区の2003統計区（北海道大学構内）が152.4%で最も高く、以下、中央区の1004統計区（苗穂地区）が121.4%、北区の2022統計区（東茨戸）が101.7%などと続いている。人口増加率が100%を超える統計区は、これら3統計区となっている。

一方、人口増加率が低い統計区をみると、南区の6013統計区（真駒内本町・曙町）がマイナス30.5%で最も低く、以下、厚別区の4507統計区（もみじ台東・西・南・北）がマイナス27.2%、南区の6015統計区（真駒内幸町・泉町・南町）がマイナス26.7%などと続いている。

人口増加率が高い統計区は、都心から3km未満の地域に多い傾向がみられ、中でも、北区の2003統計区（北海道大学構内）や、再開発が進んでいる苗穂駅周辺を含む中央区の1004統計区（苗穂地区）などで特に高くなっている。

第1-4図 統計区別人口増加率（令和4年中）



注： 住民基本台帳による。比率計算に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-5表 人口増加率の高い統計区及び低い統計区

住民基本台帳による。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。

(単位 %)			令和4年中		
順位	人口増加率の高い統計区		順位	人口増加率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	増加率 ¹⁾		統計区番号及び主な地区・町名	増加率 ¹⁾
1	2003 北) 北海道大学構内	152.4	1	6013 南) 真駒内本町・曙町	△ 30.5
2	1004 中) 苗穂地区	121.4	2	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	△ 27.2
3	2022 北) 東茨戸	101.7	3	6015 南) 真駒内幸町・泉町・南町	△ 26.7
4	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	32.7	4	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	△ 18.9
5	1005 中) 豊水地区、西創成地区	32.0	5	7503-6 手) 前田	△ 18.7
6	2007 北) 麻生町	29.5	6	4505 厚) 青葉町	△ 17.9
7	1001 中) 中央地区	28.0	7	7503-4 手) 前田	△ 16.5
8	3016 東) 東雁来、東雁来町	25.6	8	3003 東) 苗穂地区、苗穂町、本町、雁来町	△ 16.2
9	7505 手) 手稲本町	19.5	9	5505 清) 真栄、美しが丘	△ 16.1
10	2002 北) 幌北地区	19.4	10	1019 中) 幌西地区、南円山地区	△ 15.5
11	7004 西) 二十四軒	19.2	10	4016 白) 北郷	△ 15.5
12	5004 豊) 旭町、水車町、平岸	18.7	12	3012 東) 栄西地区、栄東地区	△ 14.9
13	1003 中) 東北地区、東地区	17.0	12	6019 南) 常盤	△ 14.9
14	5001 豊) 豊平、旭町、水車町	16.3	14	2017-1 北) 屯田	△ 14.5
15	1006 中) 豊水地区、曙地区	16.2	15	4018 白) 川北	△ 14.3

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-6表 自然増加率の高い統計区及び低い統計区

住民基本台帳による。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。

(単位 %)			令和4年中		
順位	自然増加率の高い統計区		順位	自然増加率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	増加率 ¹⁾		統計区番号及び主な地区・町名	増加率 ¹⁾
1	3016 東) 東雁来、東雁来町	4.4	1	7008 西) 山の手、小別沢	△ 20.0
2	2003 北) 北海道大学構内	4.3	2	7502 手) 西宮の沢	△ 19.0
3	1003 中) 東北地区、東地区	△ 0.3	3	4505 厚) 青葉町	△ 17.6
4	3014 東) 栄東地区、栄町	△ 0.6	4	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	△ 16.5
4	4001 白) 菊水	△ 0.6	5	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	△ 15.8
6	1010 中) 桑園地区	△ 1.0	6	4511 厚) 厚別西、厚別町山本	△ 15.3
6	3005 東) 北光地区、北栄地区	△ 1.0	7	6020 南) 真駒内南町、石山、石山東、芸術の森	△ 15.1
8	1002 中) 本府地区	△ 1.2	8	3015-5 東) 東苗穂、本町	△ 14.4
8	5006 豊) 豊平、美園、平岸	△ 1.2	9	4020 白) 川下	△ 14.2
10	1011 中) 大通地区、桑園地区	△ 1.4	10	6014 南) 真駒内上町・緑町	△ 14.1
11	7011 西) 西町北、西町南	△ 1.6	11	1019 中) 幌西地区、南円山地区	△ 13.9
12	1004 中) 苗穂地区	△ 1.7	12	6003 南) 北ノ沢、川沿	△ 13.7
12	4012 白) 栄通、南郷通、本通南	△ 1.7	13	6016 南) 真駒内柏丘・緑町、真駒内公園	△ 13.4
12	7013 西) 発寒	△ 1.7	14	7503-3 手) 前田	△ 13.3
15	7014 西) 発寒	△ 2.1	14	7509 手) 金山、手稲金山	△ 13.3

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

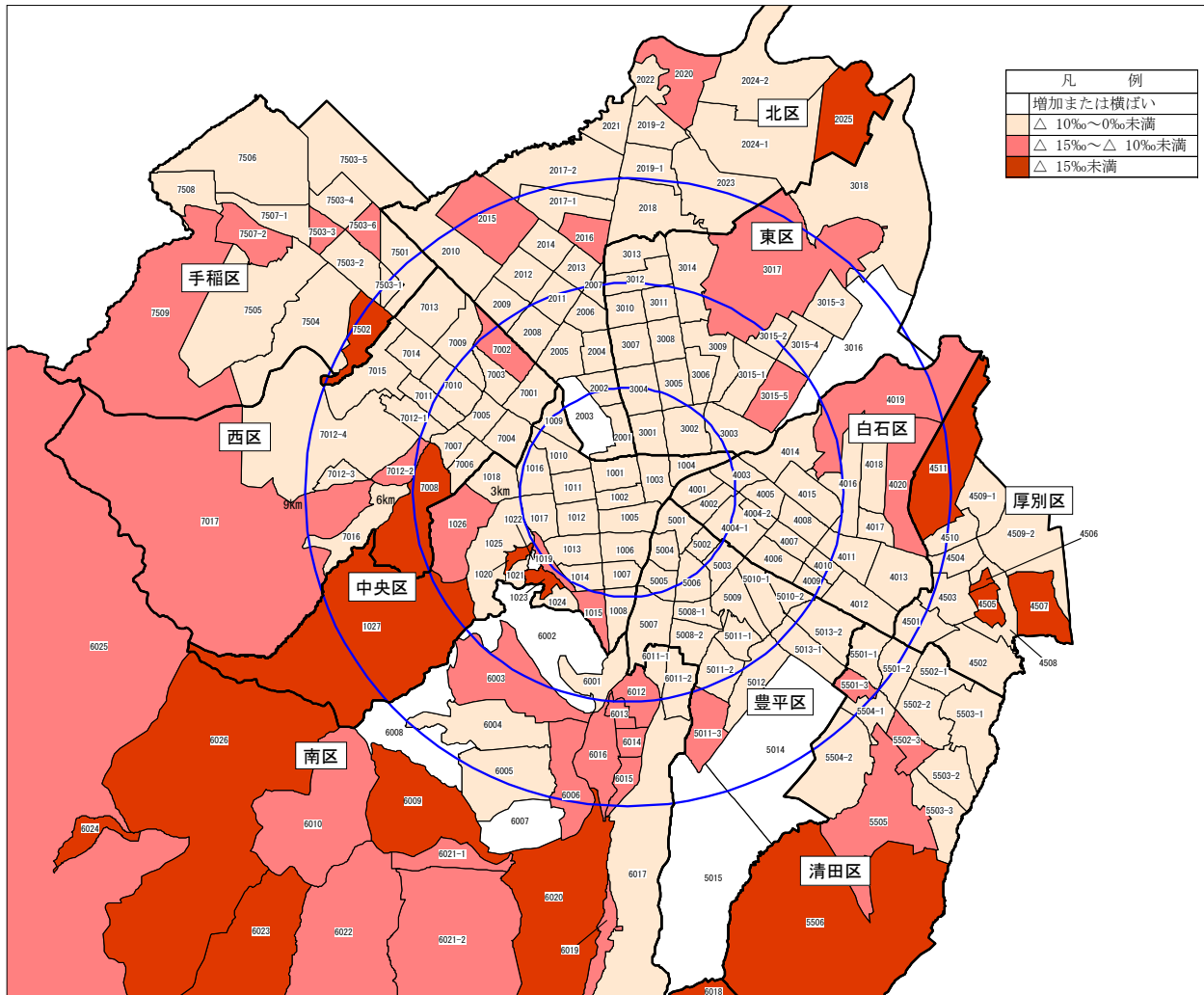
(2) 自然動態

自然増加率は、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）と北区の2003統計区（北海道大学構内）でプラス（第1-6表、第1-5図）

統計区別に自然増加率（人口千人当たりの自然増加数（出生数－死亡数））をみると、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）が4.4%で最も高く、次いで、北区の2003統計区（北海道大学構内）が4.3%となっており、それ以外の統計区では自然増加率がマイナスとなっている。

自然増加率が低い統計区をみると、西区の7008統計区（山の手、小別沢）がマイナス20.0%で最も低

第1-5図 統計区別自然増加率（令和4年中）



注： 住民基本台帳による。比率計算に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

く、以下、手稲区の7502統計区（西宮の沢）がマイナス19.0%、厚別区の4505統計区（青葉町）がマイナス17.6%などと続いている。南区の多くの統計区で自然増加率がマイナス10%未満と低くなっている。

出生率は、北区の2022統計区（東茨戸）が12.8%で最も高い（第1-7表、第1-6図）

出生率（人口千人当たりの出生数）が高い統計区をみると、北区の2022統計区（東茨戸）が12.8%で最も高く、以下、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）が11.9%、中央区の1001統計区（中央地区）が8.6%などと続いている。

一方、出生率が低い統計区をみると、西区の7008統計区（山の手、小別沢）が0.8%で最も低く、以下、厚別区の4507統計区（もみじ台東・西・南・北）が2.0%、南区の6022統計区（簾舞）が2.1%などと続いている。

出生率は、北区の2022統計区（東茨戸）や東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）など郊外の住宅地で10%を超えている。

第1-7表 出生率の高い統計区及び低い統計区

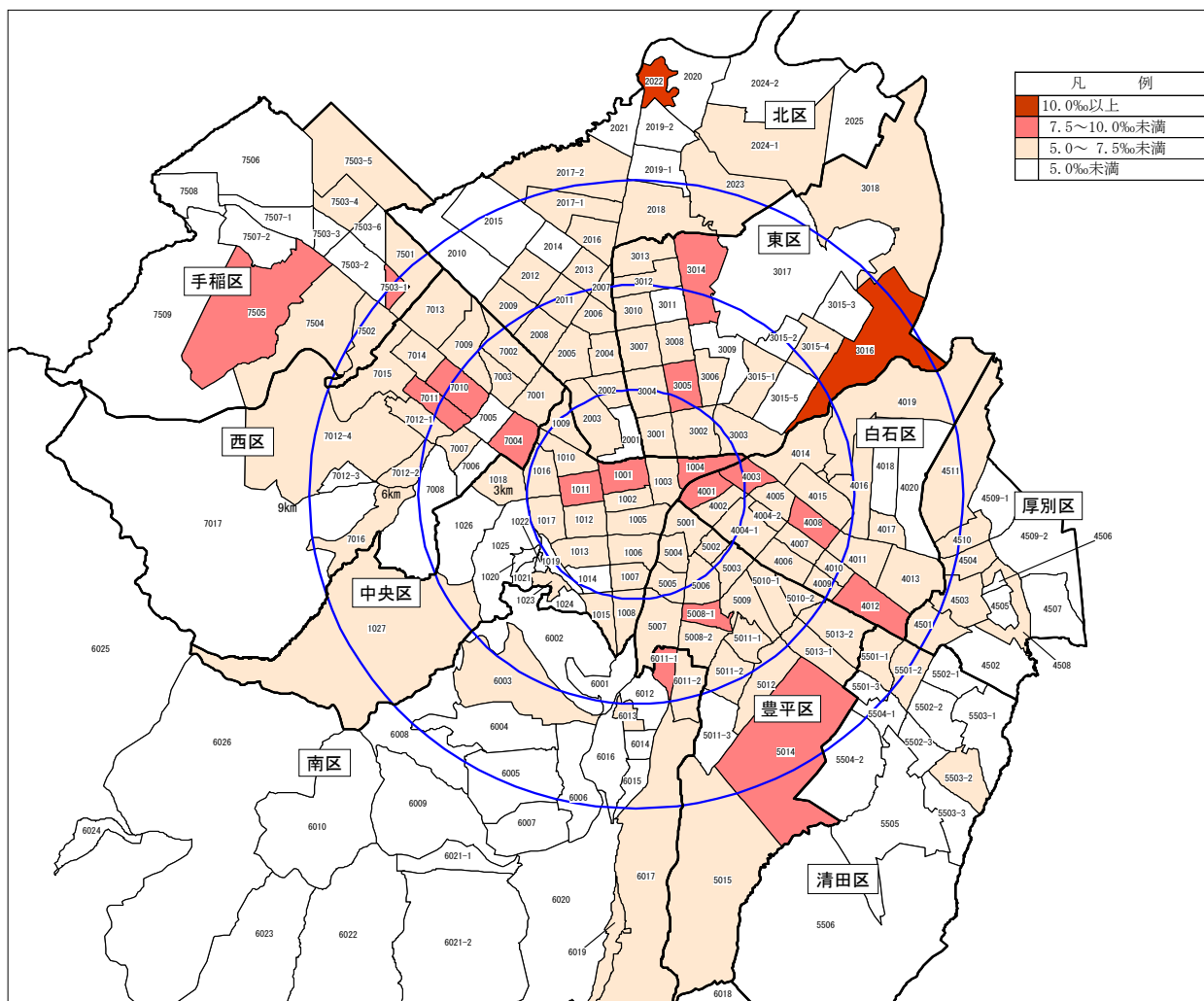
住民基本台帳による。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。

(単位 %)			令和4年中		
順位	出生率の高い統計区		順位	出生率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	出生率 1)		統計区番号及び主な地区・町名	出生率 1)
1	2022 北) 東茨戸	12.8	1	7008 西) 山の手、小別沢	0.8
2	3016 東) 東雁来、東雁来町	11.9	2	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	2.0
3	1001 中) 中央地区	8.6	3	6022 南) 簾舞	2.1
4	7505 手) 手稲本町	8.5	4	2021 北) 西茨戸	2.5
5	7004 西) 二十四軒	8.4	5	7509 手) 金山、手稲金山	2.6
6	1004 中) 苗穂地区	8.3	6	6015 南) 真駒内幸町・泉町・南町	2.8
6	4008 白) 本通北、平和通	8.3	7	3011 東) 栄東地区	3.2
8	3014 東) 栄東地区、栄町	8.1	7	4505 厚) 青葉町	3.2
9	3005 東) 北光地区、北栄地区	8.0	7	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	3.2
9	5008-1 豊) 平岸	8.0	7	7503-6 手) 前田	3.2
11	4001 白) 菊水	7.9	11	4509-1 厚) 厚別西、厚別北、厚別町小野幌	3.3
11	7503-1 手) 新発寒	7.9	12	4502 厚) 厚別南、上野幌、厚別町上野幌	3.4
13	7010 西) 発寒	7.8	12	5503-1 清) 平岡、平岡公園、平岡公園東、 里塚緑ヶ丘	3.4
14	1011 中) 大通地区、桑園地区	7.7	14	5505 清) 真栄、美しが丘	3.5
14	4003 白) 菊水上町	7.7	15	1019 中) 幌西地区、南円山地区	3.7
14	7011 西) 西町北、西町南	7.7	15	5504-1 清) 清田	3.7

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-6図 統計区別出生率（令和4年中）



注：住民基本台帳による。比率計算に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

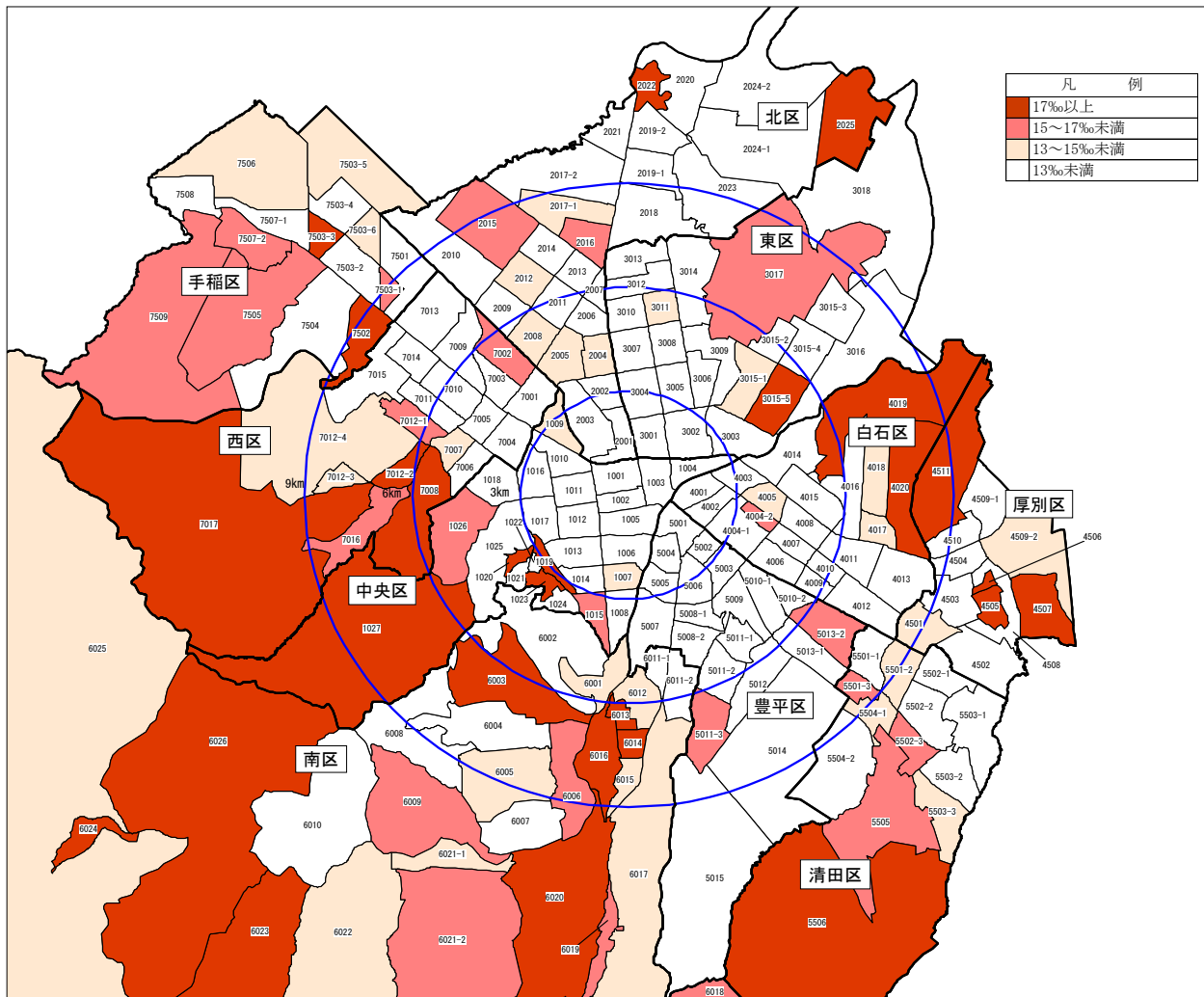
<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

死亡率は、手稲区の7502統計区（西宮の沢）が24.1%で最も高い（第1-8表、第1-7図）

死亡率（人口千人当たりの死亡数）が高い統計区をみると、手稲区の7502統計区（西宮の沢）が24.1%で最も高く、以下、中央区の1023統計区（旭ヶ丘、伏見）が21.8%、西区の7008統計区（山の手、小別沢）が20.9%などと続いている。これは、区域内に療養型の病院や老人ホームなどが立地していることにより、死亡率が高くなっているためと考えられる。

一方、死亡率が低い統計区をみると、北区の2003統計区（北海道大学構内）が1.7%で最も低く、以下、清田区の5503-1統計区（平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘）が6.0%、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が7.2%などと続いている。

第1-7図 統計区別死亡率（令和4年中）



注： 住民基本台帳による。比率計算に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-8表 死亡率の高い統計区及び低い統計区

住民基本台帳による。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。

(単位 %)			令和4年中		
順位	死亡率の高い統計区		順位	死亡率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	死亡率 ¹⁾		統計区番号及び主な地区・町名	死亡率 ¹⁾
1	7502 手) 西宮の沢	24.1	1	2003 北) 北海道大学構内	1.7
2	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	21.8	2	5503-1 清) 平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘	6.0
3	7008 西) 山の手、小別沢	20.9	3	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	7.2
4	4505 厚) 青葉町	20.8	4	1003 中) 東北地区、東地区	7.6
5	4511 厚) 厚別西、厚別町山本	20.5	4	3016 東) 東雁来、東雁来町	7.6
6	2022 北) 東茨戸	19.6	6	4509-1 厚) 厚別西、厚別北、厚別町小野幌	7.7
7	3015-5 東) 東苗穂、本町	18.9	6	7013 西) 発寒	7.7
7	6020 南) 真駒内南町、石山、石山東、芸術の森	18.9	8	1010 中) 桑園地区	8.1
9	6003 南) 北ノ沢、川沿	18.8	9	1002 中) 本府地区	8.2
9	6014 南) 真駒内上町・緑町	18.8	9	2024-2 北) あいの里、篠路町拓北	8.2
11	4020 白) 川下	18.7	11	5006 豊) 豊平、美園、平岸	8.4
12	6013 南) 真駒内本町・曙町	17.9	12	4002 白) 菊水	8.5
13	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	17.8	13	1016 中) 円山地区、桑園地区	8.6
14	1019 中) 幌西地区、南円山地区	17.7	13	2024-1 北) 拓北、南あいの里、篠路町拓北	8.6
15	4019 白) 北郷、米里、東米里	17.6	13	4001 白) 菊水	8.6
			13	6004 南) 中ノ沢、川沿	8.6

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

(3) 社会動態

社会増加率は、都心から3km未満の統計区や地下鉄沿線の統計区などで高い(第1-9表、第1-8図)

次に、統計区別に社会増加率(人口千人当たりの人口移動者数(市外及び市内からの転入者数ー市外及び市内への転出者数))が高い統計区をみると、北区の2003統計区(北海道大学構内)が148.1%で最も高く、以下、中央区の1004統計区(苗穂地区)が123.0%、北区の2022統計区(東茨戸)が108.4%などと続いている。

一方、社会増加率が低い統計区をみると、南区の6013統計区(真駒内本町・曙町)がマイナス17.6%で最も低く、以下、南区の6015統計区(真駒内幸町・泉町・南町)がマイナス16.5%、厚別区の4507統計区(もみじ台東・西・南・北)がマイナス11.3%などと続いている。

社会増加率は、都心から3km未満の統計区のほか、地下鉄沿線の統計区などで高い傾向となっている。また、北区の2022統計区(東茨戸)や手稲区の7505統計区(手稲本町)など郊外においても、社会増加率が20%を超える地域がみられる。

第1-9表 社会増加率の高い統計区及び低い統計区

住民基本台帳による。市外及び市内の転出入のほか職権等による増減を含む。
令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。

(単位 %)

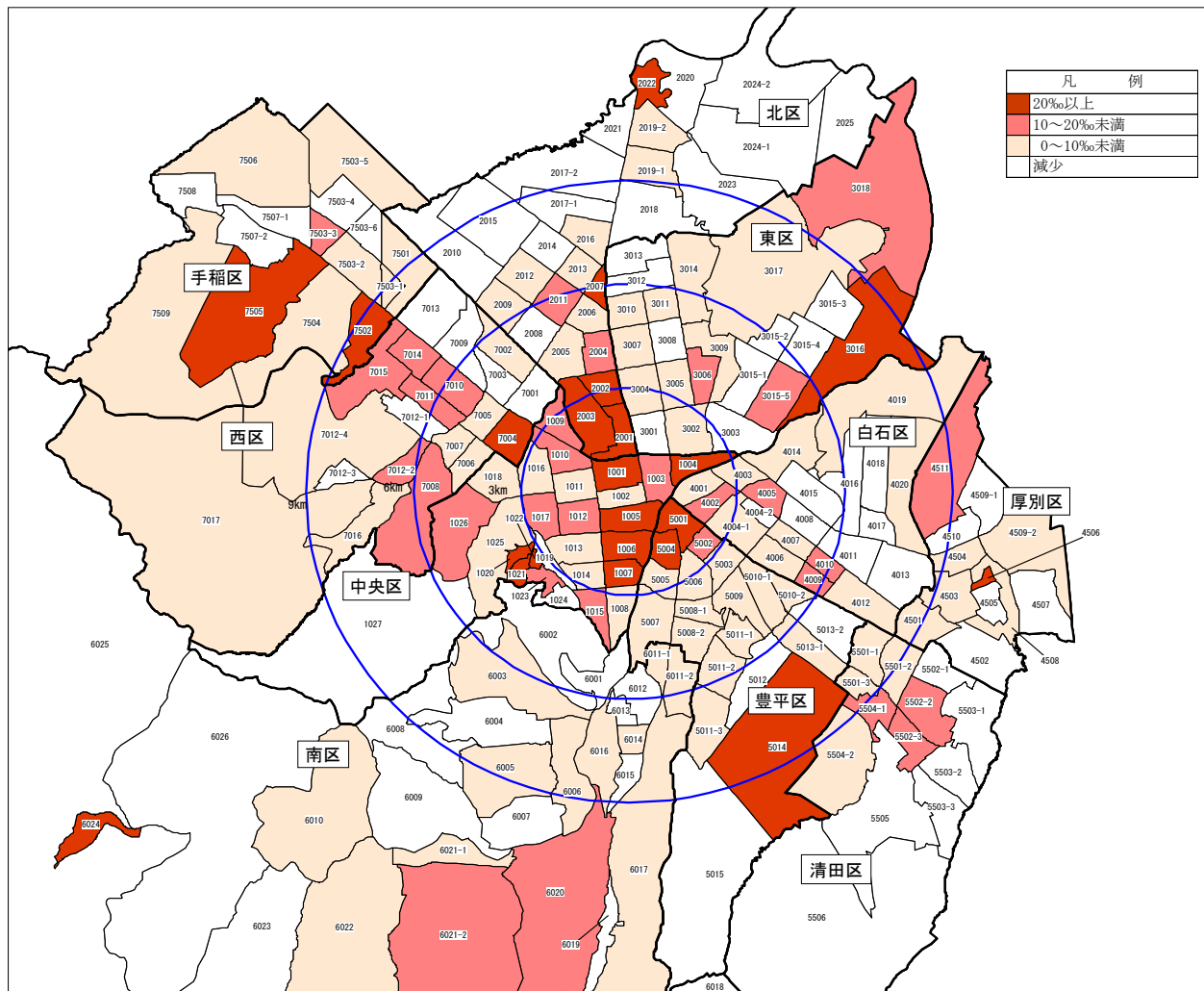
令和4年中

順位	社会増加率の高い統計区		順位	社会増加率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	増加率 ¹⁾		統計区番号及び主な地区・町名	増加率 ¹⁾
1	2003 北) 北海道大学構内	148.1	1	6013 南) 真駒内本町・曙町	△ 17.6
2	1004 中) 苗穂地区	123.0	2	6015 南) 真駒内幸町・泉町・南町	△ 16.5
3	2022 北) 東茨戸	108.4	3	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	△ 11.3
4	1005 中) 豊水地区、西創成地区	35.4	4	5503-1 清) 平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘	△ 11.1
5	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	35.0	5	3003 東) 苗穂地区、苗穂町、本町、雁来町	△ 10.4
6	2007 北) 麻生町	33.3	6	7503-4 手) 前田	△ 10.0
7	1001 中) 中央地区	31.0	7	3012 東) 栄西地区、栄東地区	△ 9.3
8	7505 手) 手稲本町	26.8	8	2017-2 北) 屯田、屯田町	△ 9.2
9	2002 北) 幌北地区	23.3	9	4016 白) 北郷	△ 9.1
10	5004 豊) 旭町、水車町、平岸	22.9	10	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	△ 8.7
11	7004 西) 二十四軒	22.8	11	7503-6 手) 前田	△ 7.7
12	7502 手) 西宮の沢	22.6	12	4510 厚) 厚別西	△ 6.5
13	5001 豊) 豊平、旭町、水車町	22.1	13	7003 西) 八軒西	△ 6.4
14	1006 中) 豊水地区、曙地区	21.6	14	4018 白) 川北	△ 5.8
15	1007 中) 山鼻地区	21.4	15	2017-1 北) 屯田	△ 5.7
			15	3015-4 東) 東苗穂、東苗穂町	△ 5.7

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-8図 統計区別社会増加率（令和4年中）



注：住民基本台帳による。比率計算に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-10表 市外からの転入率の高い統計区及び低い統計区

住民基本台帳による。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。
※は市外への転出率の高い統計区上位15位に入る統計区、*は市外への転出率の低い統計区上位15位に入る統計区である。

(単位 %)			令和4年中		
順位	市外からの転入率の高い統計区		順位	市外からの転入率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	転入率 1)		統計区番号及び主な地区・町名	転入率 1)
1	※2003 北) 北海道大学構内	679.7	1	*2021 北) 西茨戸	6.2
2	※6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	398.5	2	*7012-3 西) 西野	9.0
3	※2001 北) 鉄西地区、幌北地区	108.1	3	2009 北) 新川、新琴似	11.2
4	※1001 中) 中央地区	102.6	4	5502-1 清) 平岡、平岡公園東	11.5
5	※2002 北) 幌北地区	92.9	5	2014 北) 新琴似	11.6
6	※1005 中) 豊水地区、西創成地区	88.9	6	*6019 南) 常盤	11.7
7	1004 中) 苗穂地区	81.9	6	*7017 西) 平和	11.7
8	※1012 中) 大通地区、西地区	78.9	8	*7016 西) 福井	12.3
9	※2007 北) 麻生町	76.7	9	3013 東) 栄西地区、栄東地区	12.9
10	※1002 中) 本府地区	74.4	9	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	12.9
11	※1003 中) 東北地区、東地区	72.7	11	6003 南) 北ノ沢、川沿	13.3
12	※1009 中) 桑園地区	68.8	12	2018 北) 太平、篠路町太平、百合が原、百合が原公園	13.5
13	※1017 中) 南円山地区、円山地区	64.9	12	2019-2 北) 篠路、篠路町篠路、東茨戸	13.5
14	5001 豊) 豊平、旭町、水車町	61.4	14	2015 北) 新琴似、新琴似町	13.6
15	1006 中) 豊水地区、曙地区	58.8	15	*3015-4 東) 東苗穂、東苗穂町	13.7
15	※6015 南) 真駒内幸町・泉町・南町	58.8			

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-11表 市外への転出率の高い統計区及び低い統計区

住民基本台帳による。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。
※は市外からの転入率の高い統計区上位15位に入る統計区、*は市外からの転入率の低い統計区上位15位に入る統計区である。

(単位 %)			令和4年中		
順位	市外への転出率の高い統計区		順位	市外への転出率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	転出率 1)		統計区番号及び主な地区・町名	転出率 1)
1	※6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	384.4	1	6022 南) 簾舞	10.4
2	※2003 北) 北海道大学構内	98.7	2	*7017 西) 平和	10.5
3	※2001 北) 鉄西地区、幌北地区	87.8	3	7008 西) 山の手、小別沢	10.8
4	※6015 南) 真駒内幸町・泉町・南町	81.5	4	*7016 西) 福井	11.3
5	※2002 北) 幌北地区	77.0	5	*7012-3 西) 西野	11.8
6	※1001 中) 中央地区	72.7	6	*2021 北) 西茨戸	12.4
7	※1003 中) 東北地区、東地区	64.1	7	*3015-4 東) 東苗穂、東苗穂町	12.5
8	※1005 中) 豊水地区、西創成地区	60.3	8	6021-2 南) 藤野	12.9
9	※1002 中) 本府地区	55.5	9	*6019 南) 常盤	13.3
10	※1012 中) 大通地区、西地区	53.9	10	7503-6 手) 前田	13.5
11	1011 中) 大通地区、桑園地区	51.9	11	7012-4 西) 西野	13.9
12	1008 中) 山鼻地区	51.5	12	5503-3 清) 美しが丘、里塚	14.0
13	※1017 中) 南円山地区、円山地区	51.3	13	3016 東) 東雁来、東雁来町	14.1
14	※1009 中) 桑園地区	51.2	14	2008 北) 新川、新琴似	14.3
15	※2007 北) 麻生町	47.1	14	6021-1 南) 藤野	14.3
			14	7012-2 西) 西野	14.3

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

市外からの転入率は、北区の2003統計区（北海道大学構内）や南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）など大学や自衛隊駐屯地が所在する地域で特に高い（第1-10表）

市外からの転入率（人口千人当たりの市外からの転入者数）が高い統計区をみると、北区の2003統計区（北海道大学構内）が679.7%で最も高く、以下、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）

が398.5%、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が108.1%などと続いている。

一方、市外からの転入率が低い統計区をみると、北区の2021統計区（西茨戸）が6.2%で最も低く、以下、西区の7012-3統計区（西野）が9.0%、北区の2009統計区（新川、新琴似）が11.2%などと続いている。

市外からの転入率は、大学が所在する北区の2003統計区（北海道大学構内）や自衛隊駐屯地が所在する南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）などで特に高くなっている。

市外への転出率が高い統計区では、市外からの転入率も高い（第1-11表）

市外への転出率（人口千人当たりの市外への転出者数）が高い統計区をみると、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が384.4%で最も高く、以下、北区の2003統計区（北海道大学構内）が98.7%、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が87.8%などと続いている。

一方、市外への転出率が低い統計区をみると、南区の6022統計区（簾舞）が10.4%で最も低く、以下、西区の7017統計区（平和）が10.5%、西区の7008統計区（山の手、小別沢）が10.8%などと続いている。

市外への転出率が高い上位15統計区のうち、13統計区は市外からの転入率が高い上位15位以内となっており、市外への転出率が高い統計区では市外からの転入率も高い傾向となっている。

道内からの転入率は、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が最も高い（第1-12表）

道内からの転入率（人口千人当たりの道内からの転入者数）が高い統計区をみると、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が219.8%で最も高く、以下、南区の6015統計区（真駒内幸町・泉町・南町）が45.1%、北区の2007統計区（麻生町）が44.2%などと続いている。

道外からの転入率は、北区の2003統計区（北海道大学構内）が最も高い（第1-12表、第1-9図）

道外からの転入率（人口千人当たりの道外からの転入者数）が高い統計区をみると、北区の2003統計区（北海道大学構内）が664.1%で最も高く、以下、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が178.7%、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が83.2%などと続いている。

道外からの転入率は、北区の2003統計区（北海道大学構内）や南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）など大学や自衛隊駐屯地が所在する統計区のほか、都心から3km未満の地域で高い傾向がみられる。

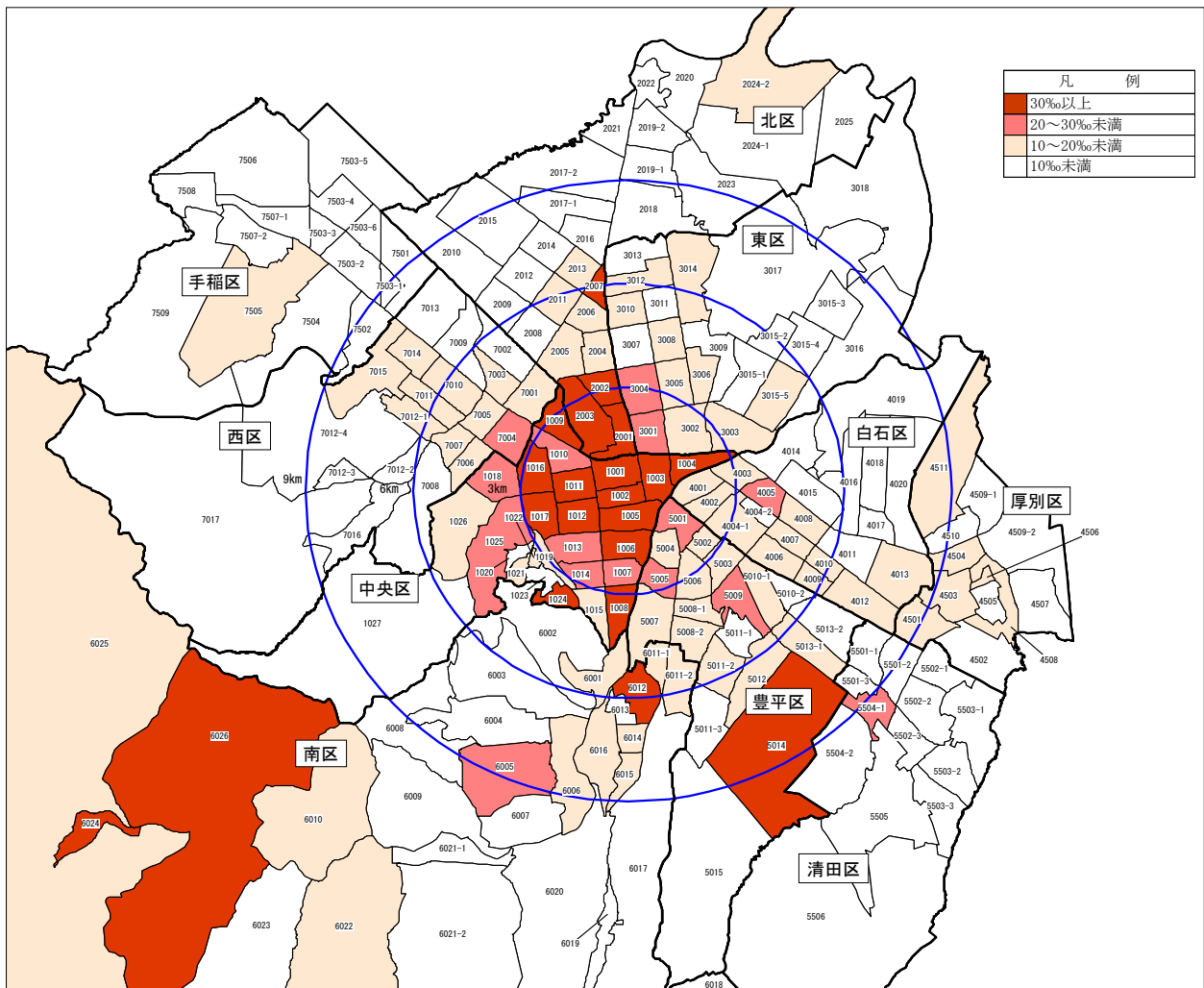
第1-12表 道内、道外からの転入率の高い統計区

住民基本台帳による。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。
※は道内への転入率の高い統計区上位15位に入る統計区、*は道外への転入率の高い統計区上位15位に入る統計区である。

(単位 %)			令和4年中		
順位	道内からの転入率の高い統計区		順位	道外からの転入率の高い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	転入率 1)		統計区番号及び主な地区・町名	転入率 1)
1	※ 6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	219.8	1	* 2003 北) 北海道大学構内	664.1
2	※ 6015 南) 真駒内幸町・泉町・南町	45.1	2	* 6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	178.7
3	※ 2007 北) 麻生町	44.2	3	* 2001 北) 鉄西地区、幌北地区	83.2
4	1005 中) 豊水地区、西創成地区	41.9	4	* 1001 中) 中央地区	68.3
5	※ 1012 中) 大通地区、西地区	41.3	5	* 2002 北) 幌北地区	60.4
6	1004 中) 苗穂地区	39.6	6	* 1002 中) 本府地区	55.0
7	※ 4504 厚) 厚別中央	38.8	7	* 1003 中) 東北地区、東地区	47.9
8	※ 5004 豊) 旭町、水車町、平岸	38.3	8	* 1005 中) 豊水地区、西創成地区	47.1
9	※ 4009 白) 栄通、南郷通	34.8	9	* 1017 中) 南円山地区、円山地区	43.1
10	※ 1001 中) 中央地区	34.3	10	1004 中) 苗穂地区	42.3
11	※ 1009 中) 桑園地区	33.6	11	* 1012 中) 大通地区、西地区	37.6
12	5001 豊) 豊平、旭町、水車町	33.2	12	* 1009 中) 桑園地区	35.2
13	7505 手) 手稲本町	32.9	13	* 1011 中) 大通地区、桑園地区	34.7
14	※ 2002 北) 幌北地区	32.5	14	2007 北) 麻生町	32.6
15	4001 白) 菊水	32.0	15	* 1008 中) 山鼻地区	30.6
			15	1016 中) 円山地区、桑園地区	30.6

注： 1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。
<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-9図 統計区別道外転入率（令和4年中）



注： 住民基本台帳による。比率計算に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

道内への転出率は、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が最も高い（第1-13表）

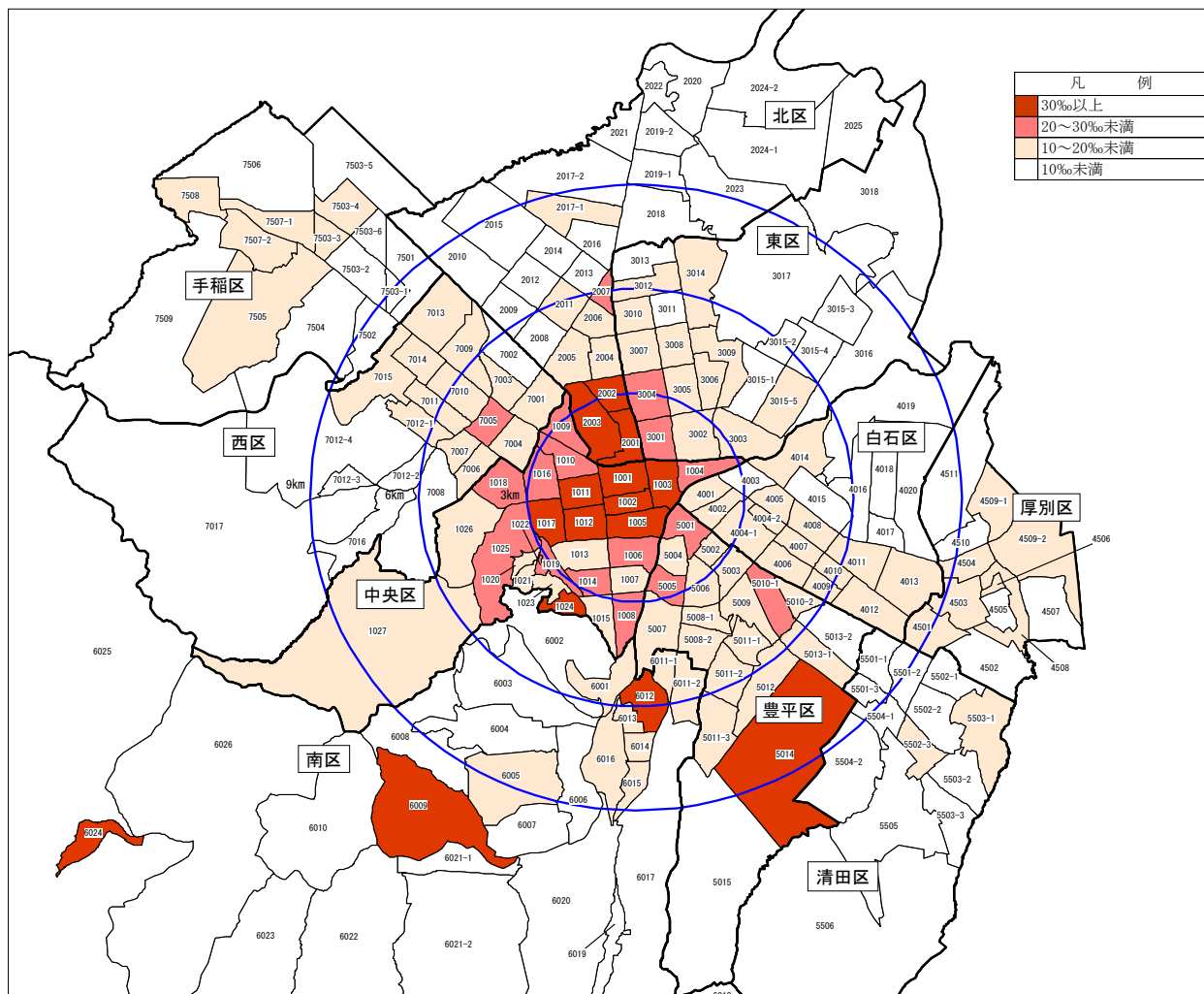
道内への転出率（人口千人当たりの道内への転出者数）が高い統計区をみると、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が290.2‰で最も高く、以下、南区の6015統計区（真駒内幸町・泉町・南町）が67.1‰、北区の2007統計区（麻生町）が25.4‰などと続いている。

道外への転出率は、大学や自衛隊駐屯地が所在する統計区のほか、都心から3km未満の地域で高い（第1-13表、第1-10図）

道外への転出率（人口千人当たりの道外への転出者数）が高い統計区をみると、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が94.2‰で最も高く、以下、北区の2003統計区（北海道大学構内）が80.5‰、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が70.0‰などと続いている。

道外への転出率が高い統計区は、道外からの転入率も高い傾向となっており、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）や北区の2003統計区（北海道大学構内）など大学や自衛隊駐屯地が所在する統計区のほか、都心から3km未満の地域で高い傾向がみられる。

第1-10図 統計区別道外転出率（令和4年中）



注： 住民基本台帳による。比率計算に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-13表 道内、道外への転出率の高い統計区

住民基本台帳による。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。
 ※は道内からの転出率の高い統計区上位15位に入る統計区、*は道外からの転入率の高い統計区上位15位に入る統計区である。

(単位 %)			令和4年中		
順位	道内への転出率の高い統計区		順位	道外への転出率の高い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	転出率 ¹⁾		統計区番号及び主な地区・町名	転出率 ¹⁾
1	※6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	290.2	1	*6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	94.2
2	※6015 南) 真駒内幸町・泉町・南町	67.1	2	*2003 北) 北海道大学構内	80.5
3	※2007 北) 麻生町	25.4	3	*2001 北) 鉄西地区、幌北地区	70.0
4	※4504 厚) 厚別中央	24.5	4	*2002 北) 幌北地区	55.7
5	※1001 中) 中央地区	24.2	5	*1003 中) 東北地区、東地区	48.9
6	※1012 中) 大通地区、西地区	23.9	6	*1001 中) 中央地区	48.5
7	※5004 豊) 旭町、水車町、平岸	22.8	7	*1002 中) 本府地区	44.5
8	※1009 中) 桑園地区	22.5	8	*1005 中) 豊水地区、西創成地区	41.3
9	1008 中) 山鼻地区	22.0	9	*1017 中) 南円山地区、円山地区	37.5
10	5006 豊) 豊平、美園、平岸	21.4	10	*1011 中) 大通地区、桑園地区	34.1
11	※2002 北) 幌北地区	21.3	11	*1012 中) 大通地区、西地区	30.0
12	※4009 白) 栄通、南郷通	20.8	12	*1008 中) 山鼻地区	29.5
13	5504-1 清) 清田	20.6	13	3001 東) 鉄東地区、北光地区	28.9
14	5010-1 豊) 美園、月寒東、月寒中央通	20.2	14	*1009 中) 桑園地区	28.7
15	4013 白) 本通北、平和通、流通センター	19.7	15	1018 中) 円山地区、宮ヶ丘、宮の森	28.5

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-14表 市内からの転入率の高い統計区及び低い統計区

住民基本台帳による。同一統計区内の移動を除く。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口1,000人未満の統計区を除く。
 ※は市内への転入率の高い統計区上位15位に入る統計区、*は市内への転入率の低い統計区上位15位に入る統計区である。

(単位 %)			令和4年中		
順位	市内からの転入率の高い統計区		順位	市内からの転入率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	転入率 ¹⁾		統計区番号及び主な地区・町名	転入率 ¹⁾
1	1004 中) 苗穂地区	130.0	1	*5503-1 清) 平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘	14.3
2	2022 北) 東茨戸	124.0	2	*4509-1 厚) 厚別西、厚別北、厚別町小野幌	15.6
3	※1005 中) 豊水地区、西創成地区	110.1	3	*2024-2 北) あいの里、篠路町拓北	17.5
4	※6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	99.1	4	*5502-1 清) 平岡、平岡公園東	21.4
5	※2007 北) 麻生町	92.9	5	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	23.0
6	※1006 中) 豊水地区、曙地区	89.0	6	*4502 厚) 厚別南、上野幌、厚別町上野幌	23.4
7	※2002 北) 幌北地区	87.2	7	7503-6 手) 前田	23.6
8	※4009 白) 栄通、南郷通	86.9	8	*5504-2 清) 清田	23.7
9	※5004 豊) 旭町、水車町、平岸	86.8	9	7508 手) 稲穂、星置、星置南、手稲星置	25.5
10	※4010 白) 本郷通、本通南	85.7	10	5503-3 清) 美しが丘、里塚	25.6
11	※3006 東) 元町地区	81.1	11	5503-2 清) 里塚	26.6
12	※5001 豊) 豊平、旭町、水車町	79.2	11	6016 南) 真駒内柏丘・緑町、真駒内公園	26.6
13	※4001 白) 菊水	78.9	13	*2021 北) 西茨戸	26.8
14	※1002 中) 本府地区	77.9	13	*7501 手) 新発寒	26.8
15	※5003 豊) 美園	76.6	15	2024-1 北) 拓北、南あいの里、篠路町拓北	27.1

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

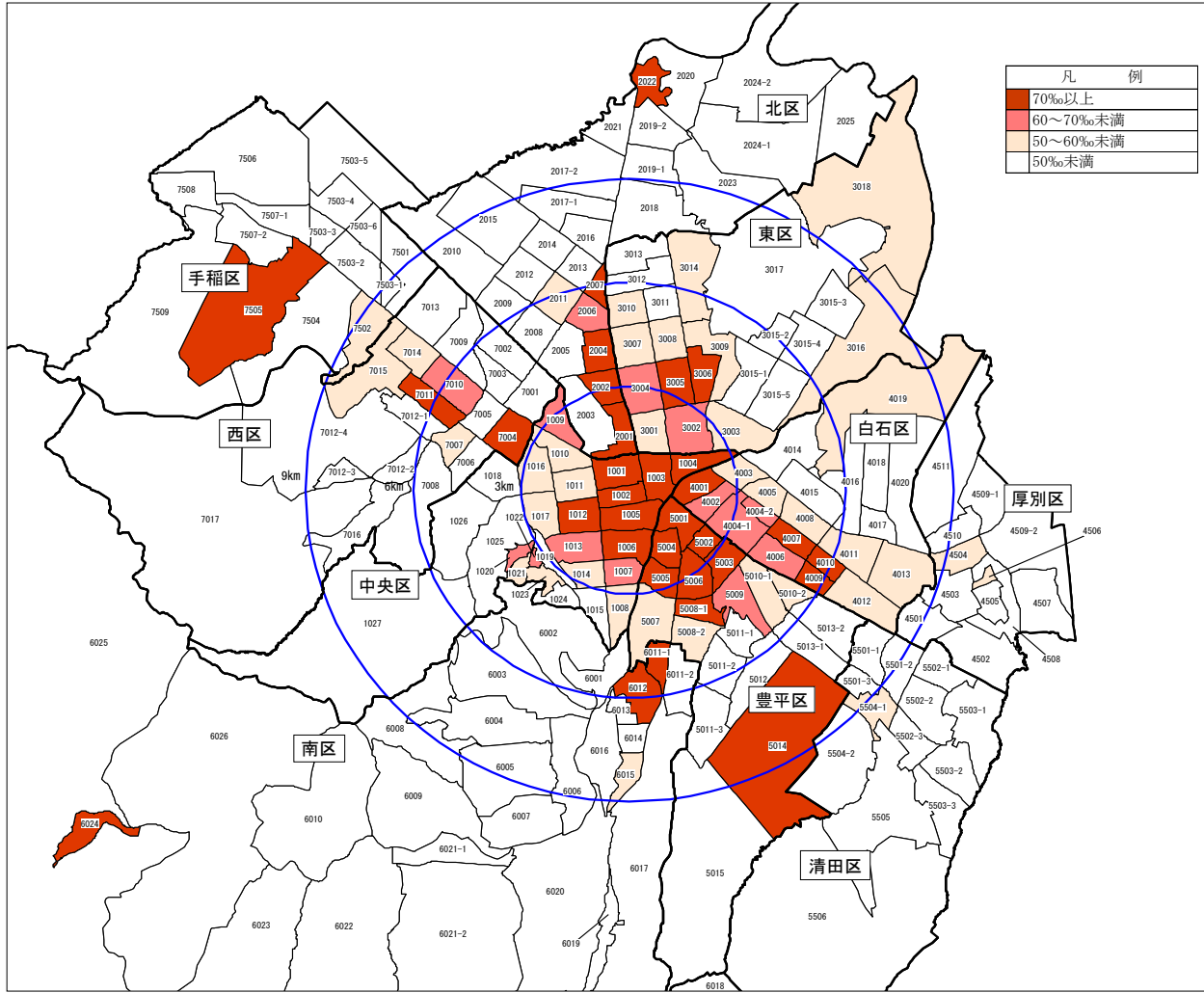
<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

市内からの転入率は、都心から3km未満や地下鉄沿線などの統計区で高い(第1-14表、第1-11図)

市内からの転入率(人口千人当たりの市内からの転入者数)が高い統計区をみると、中央区の1004統計区(苗穂地区)が130.0%で最も高く、以下、北区の2022統計区(東茨戸)が124.0%、中央区の1005統計区(豊水地区、西創成地区)が110.1%などと続いている。

一方、市内からの転入率が低い統計区をみると、清田区の5503-1統計区(平岡、平岡公園、平岡公園東、

第1-11図 統計区別市内転入率（令和4年中）



注：住民基本台帳による。比率計算に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

里塚緑ヶ丘)が14.3%で最も低く、以下、厚別区の4509-1統計区(厚別西、厚別北、厚別町小野幌)が15.6%、北区の2024-2統計区(あいの里、篠路町拓北)が17.5%などと続いている。

市内からの転入率は、都心から3km未満の統計区や、地下鉄沿線などの統計区で高い傾向がみられる。

市内への転出率が高い統計区では、市内からの転入率も高い(第1-15表、第1-12図)

市内への転出率(人口千人当たりの市内への転出者数)が高い統計区をみると、北区の2003統計区(北海道大学構内)が456.3%で最も高く、以下、南区の6012統計区(真駒内本町、真駒内自衛隊敷地)が124.0%、中央区の1005統計区(豊水地区、西創成地区)が102.9%などと続いている。

一方、市内への転出率が低い統計区をみると、厚別区の4509-1統計区(厚別西、厚別北、厚別町小野幌)が17.6%で最も低く、以下、清田区の5502-1統計区(平岡、平岡公園東)及び清田区の5503-1統計区(平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘)が20.6%などと続いている。

市内への転出率は、留学生などの外国人人口の割合が高い北海道大学構内が突出して高いほか、都心から3km未満や地下鉄沿線などの統計区でも高くなっている。市内への転出率が高い統計区では、市内からの転入率も高い傾向となっている。

第1-15表 市内への転出率の高い統計区及び低い統計区

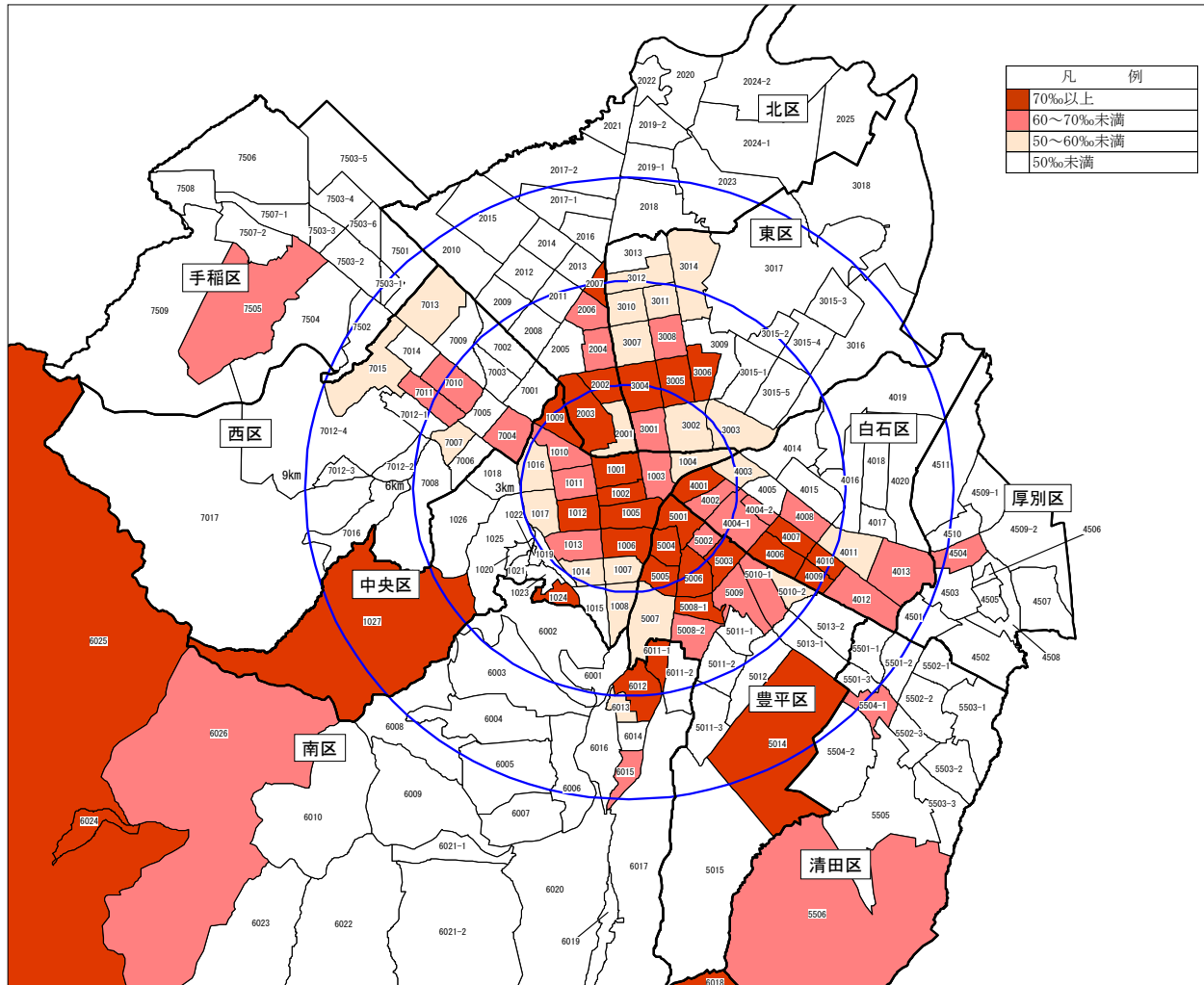
住民基本台帳による。同一統計区内の移動を除く。令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口が1,000人未満の統計区を除く。
 ※は市内からの転入率の高い統計区上位15位に入る統計区、*は市内からの転入率の低い統計区上位15位に入る統計区である。

(単位 %)		令和4年中			
順位	市内への転出率の高い統計区		順位	市内への転出率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	転出率 ¹⁾		統計区番号及び主な地区・町名	転出率 ¹⁾
1	2003 北) 北海道大学構内	456.3	1	* 4509-1 厚) 厚別西、厚別北、厚別町小野幌	17.6
2	※ 6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	124.0	2	* 5502-1 清) 平岡、平岡公園東	20.6
3	※ 1005 中) 豊水地区、西創成地区	102.9	2	* 5503-1 清) 平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘	20.6
4	※ 1002 中) 本府地区	91.7	4	* 2024-2 北) あいの里、篠路町拓北	22.5
4	※ 4009 白) 栄通、南郷通	91.7	5	* 7501 手) 新発寒	23.0
6	※ 2007 北) 麻生町	88.3	6	* 5504-2 清) 清田	23.9
7	※ 4001 白) 菊水	85.7	7	2022 北) 東茨戸	24.0
8	1012 中) 大通地区、西地区	83.2	8	* 2021 北) 西茨戸	24.8
9	※ 1006 中) 豊水地区、曙地区	82.9	9	6020 南) 真駒内南町、石山、石山東、芸術の森	25.0
9	※ 5003 豊) 美園	82.9	10	7509 手) 金山、手稲金山	25.5
11	※ 5004 豊) 旭町、水車町、平岸	80.3	11	2009 北) 新川、新琴似	26.2
12	※ 4010 白) 本郷通、本通南	79.9	12	7506 手) 曙、星置、明日風、手稲山口	26.5
13	※ 3006 東) 元町地区	79.2	13	* 4502 厚) 厚別南、上野幌、厚別町上野幌	27.0
14	※ 5001 豊) 豊平、旭町、水車町	78.0	13	5502-2 清) 平岡	27.0
15	※ 2002 北) 幌北地区	77.7	15	5011-3 豊) 西岡	27.8

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-12図 統計区別市内転出率（令和4年中）



注：住民基本台帳による。比率計算に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

4 昼間人口

(1) 統計区別昼間人口

第1-16表 昼間人口の多い統計区

昼間人口は、中央区の1001 統計区（中央地区）が90,811 人で突出して多い（第1-16表）

「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて、札幌市で独自に推計した令和2年10月1日現在の統計区別昼間人口をみると、20,000 人以上の統計区は8 統計区、15,000～20,000 人未満の統計区は15 統計区、10,000～15,000 人未満の統計区は61 統計区、5,000～10,000 人未満の統計区は74 統計区、

5,000 人未満の統計区は48 統計区（昼間人口が皆無の3 統計区を含む。）となっている。

統計区別に昼間人口をみると、中央区の1001 統計区（中央地区）が90,811 人で突出して多く、以下、

令和2年10月1日現在

順位	統計区番号及び主な地区・町名		昼間人口 1)	常住人口 (夜間人口) 2)
1	1001	中) 中央地区	90,811	2,585
2	2001	北) 鉄西地区、幌北地区	46,383	16,493
3	1002	中) 本府地区	43,696	4,370
4	1003	中) 東北地区、東地区	29,829	17,394
5	1011	中) 大通地区、桑園地区	24,734	12,879
6	1005	中) 豊水地区、西創成地区	24,567	16,051
7	4004-1	白) 東札幌、中央	23,210	23,320
8	1012	中) 大通地区、西地区	21,912	18,732
9	4509-2	厚) 厚別東、厚別町下野幌、 下野幌テカパーク、厚別町小野幌	18,841	16,322
10	3001	東) 鉄東地区、北光地区	18,766	16,183
11	2003	北) 北海道大学構内	18,245	1,185
12	4012	白) 栄通、南郷通、本通南	18,029	22,349
13	7005	西) 琴似	17,812	18,891
14	1016	中) 円山地区、桑園地区	17,201	19,637
15	7004	西) 二十四軒	17,191	16,178

注：1) 「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて推計した。

2) 「国勢調査」による。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-17表 昼夜間人口比率の高い統計区及び低い統計区

令和2年の常住人口が1,000人未満の統計区を除く。

なお、昼間人口は「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて推計した。

各年10月1日現在

順位	昼夜間人口比率の高い統計区				順位	昼夜間人口比率の低い統計区			
	統計区番号及び主な地区・町名		昼夜間人口比率1)			統計区番号及び主な地区・町名		昼夜間人口比率1)	
			平成 27年	令和 2年				平成 27年	令和 2年
1	1001	中) 中央地区	3,965.7	3,513.0	1	6004	南) 中ノ沢、川沿	47.6	52.1
2	2003	北) 北海道大学構内	1,502.3	1,539.7	2	7012-3	西) 西野	52.5	53.2
3	1002	中) 本府地区	1,041.8	999.9	3	2024-1	北) 拓北、南あいの里、 篠路町拓北	56.7	53.5
4	4013	白) 本通北、平和通、 流通センター	397.5	394.7	4	3015-3	東) 東苗穂、東雁来、 東苗穂町	55.9	58.1
5	7013	西) 発寒	357.2	360.9	4	5503-1	清) 平岡、平岡公園、 平岡公園東、里塚緑ヶ丘	56.5	58.1
6	2001	北) 鉄西地区、幌北地区	287.6	281.2	6	7503-1	手) 新発寒	61.6	60.2
7	6012	南) 真駒内本町、 真駒内自衛隊敷地	254.8	260.2	7	2016	北) 屯田	60.5	60.5
8	4019	白) 北郷、米里、東米里	199.4	205.7	8	6016	南) 真駒内柏丘・緑町、 真駒内公園	64.5	63.6
9	6024	南) 定山溪温泉東、 定山溪温泉西	195.1	197.9	9	4509-1	厚) 厚別西、厚別北、 厚別町小野幌	61.1	64.4
10	1011	中) 大通地区、桑園地区	223.6	192.0	10	7503-6	手) 前田	59.1	66.2
11	1003	中) 東北地区、東地区	192.1	171.5	11	7010	西) 発寒	69.4	67.0
12	5502-3	清) 平岡、美しが丘	181.2	168.1	12	2021	北) 西茨戸	64.7	67.1
13	5504-1	清) 清田	169.0	162.9	13	7012-4	西) 西野	67.3	67.3
14	1023	中) 旭ヶ丘、伏見	149.1	158.7	14	2005	北) 北地区	72.7	67.6
15	7503-3	手) 前田	147.2	155.0	15	7503-2	手) 前田	67.5	67.7

注：1) 常住人口100人当たりの昼間人口。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が46,383人、中央区の1002統計区（本府地区）が43,696人などと続いている。

昼間人口の多い上位の統計区には、都心から3km未満の地域が多い傾向となっている。

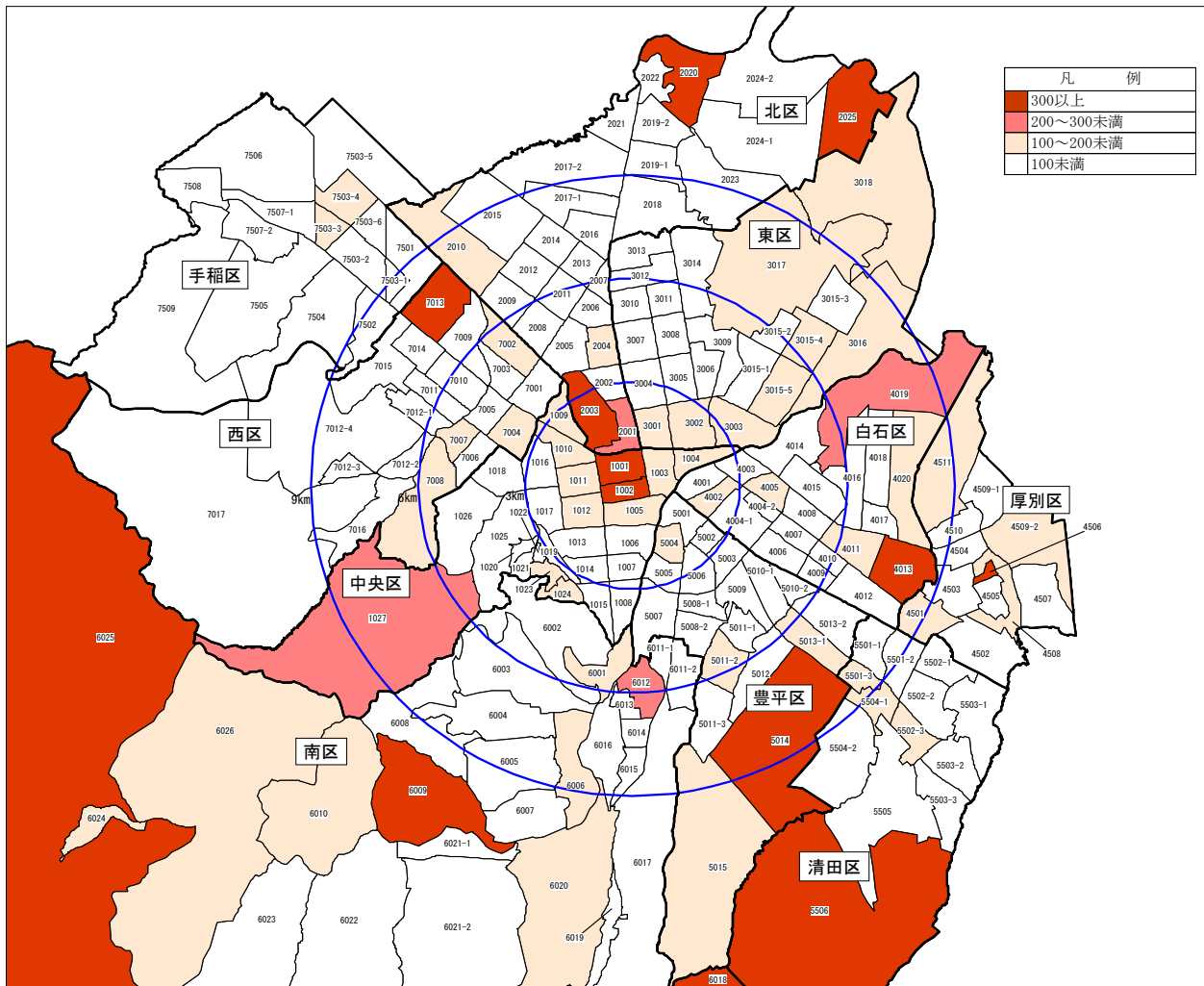
中央区の1001統計区（中央地区）の昼間人口は常住人口の35倍（第1-17表、第1-13図）

また、令和2年の常住人口が1,000人以上の統計区について、昼夜間人口比率（常住人口100人当たりの昼間人口）をみると、中央区の1001統計区（中央地区）が3,513.0で最も高く、昼間人口が常住人口の35倍となっている。以下、北区の2003統計区（北海道大学構内）が1,539.7、中央区の1002統計区（本府地区）が999.9などと続いている。

一方、昼夜間人口比率の低い統計区をみると、南区の6004統計区（中ノ沢、川沿）が52.1で最も低く、以下、西区の7012-3統計区（西野）が53.2、北区の2024-1統計区（拓北、南あいの里、篠路町拓北）が53.5などと続いている。

平成27年と比べると、中央区の1001統計区（中央地区）は、常住人口が増加したことにより、452.7ポイントの低下と大きく低下している。

第1-13図 統計区別昼夜間人口比率（令和2年10月1日現在）



注：比率計算に用いた昼間人口は、「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて推計した。常住人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

昼夜間人口比率は、中央区の1001統計区（中央地区）及び中央区の1002統計区（本府地区）など常住者は少ないが、事業所数が多く通勤者数が多い地域や、北区の2003統計区（北海道大学構内）など大規模な学校が所在し通学者数が多い地域で特に高くなっている。

昼間人口に占める就業者割合は、中央区の1001統計区（中央地区）で9割以上（第1-18表）

昼間人口が1,000人以上の統計区について、昼間人口に占める就業者の割合をみると、中央区の1001統計区（中央地区）が97.0%と9割以上で最も高く、以下、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が89.2%、白石区の4013統計区（本通北、平和通、流通センター）が88.5%などと続いている。

昼間人口に占める就業者割合は、事業所数が多い中央区の1001統計区（中央地区）や中央区の1002統計区（本府地区）や、事業所数は少ないが1事業所当たりの従業者数が多い大規模な事業所が所在する南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）などで高くなっている。

北区の2020統計区（篠路町篠路）及び北区の2003統計区（北海道大学構内）では、昼間人口の7割以上が通学者（第1-19表）

昼間人口が1,000人以上の統計区について、昼間人口に占める通学者の割合の高い統計区をみると、札幌英藍高校などが所在する北区の2020統計区（篠路町篠路）が77.5%で最も高く、続いて、北海道大学が所在する北区の2003統計区（北海道大学構内）が72.1%と、この2統計区では、昼間人口の7割以上が通学者となっている。次いで、北海学園大学などが所在する豊平区の5004統計区（旭町、水車町、平岸）が51.6%などと続いている。

昼間人口に占める通学者割合は、大規模な学校が所在する北区の2003統計区（北海道大学構内）や豊平区の5004統計区（旭町、水車町、平岸）のほか、通勤者が少なく相対的に通学者の割合が高い北区の2020統計区（篠路町篠路）などで高くなっている。

第1-18表 昼間人口に占める就業者割合の高い統計区

昼間人口が1,000人未満の統計区を除く。
なお、昼間人口は「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて推計した。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	割合	
1	1001 中) 中央地区	97.0	
2	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	89.2	
3	4013 白) 本通北、平和通、流通センター	88.5	
4	1002 中) 本府地区	87.6	
5	4506 厚) 厚別中央	79.9	
6	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	79.5	
7	7013 西) 発寒	78.2	
8	6024 南) 定山溪温泉東、定山溪温泉西	73.2	
9	1004 中) 苗穂地区	69.2	
10	1003 中) 東北地区、東地区	67.4	
11	4005 白) 中央	64.3	
12	1009 中) 桑園地区	63.6	
13	5504-1 清) 清田	62.2	
14	1011 中) 大通地区、桑園地区	61.6	
15	7503-3 手) 前田	61.3	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-19表 昼間人口に占める通学者割合の高い統計区

昼間人口が1,000人未満の統計区を除く。
なお、昼間人口は「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて推計した。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	割合	
1	2020 北) 篠路町篠路	77.5	
2	2003 北) 北海道大学構内	72.1	
3	5004 豊) 旭町、水車町、平岸	51.6	
4	7503-4 手) 前田	43.4	
5	6005 南) 南沢	32.1	
6	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	32.0	
7	3015-4 東) 東苗穂、東苗穂町	31.3	
8	5011-2 豊) 西岡	30.2	
9	4501 厚) 大谷地東、大谷地西	25.1	
10	5504-2 清) 清田	24.9	
11	4002 白) 菊水	24.3	
12	2024-2 北) あいの里、篠路町拓北	23.9	
13	4018 白) 川北	23.7	
14	1019 中) 幌西地区、南円山地区	22.9	
15	7503-5 手) 前田、手稲前田	21.5	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

(2) 統計区別屋間人口密度

屋間人口密度は、都心から3km未済や、地下鉄沿線の統計区で高い(第1-20表、第1-14図)

令和2年10月1日現在の統計区別屋間人口密度をみると、中央区の1001統計区(中央地区)が803.6人/haで最も高く、以下、中央区の1002統計区(本府地区)が606.9人/ha、北区の2001統計区(鉄西地区、幌北地区)が441.7人/haなどと続いている。

中央区の1001統計区(中央地区)及び中央区の1002統計区(本府地区)は、流入人口が多いため、常住

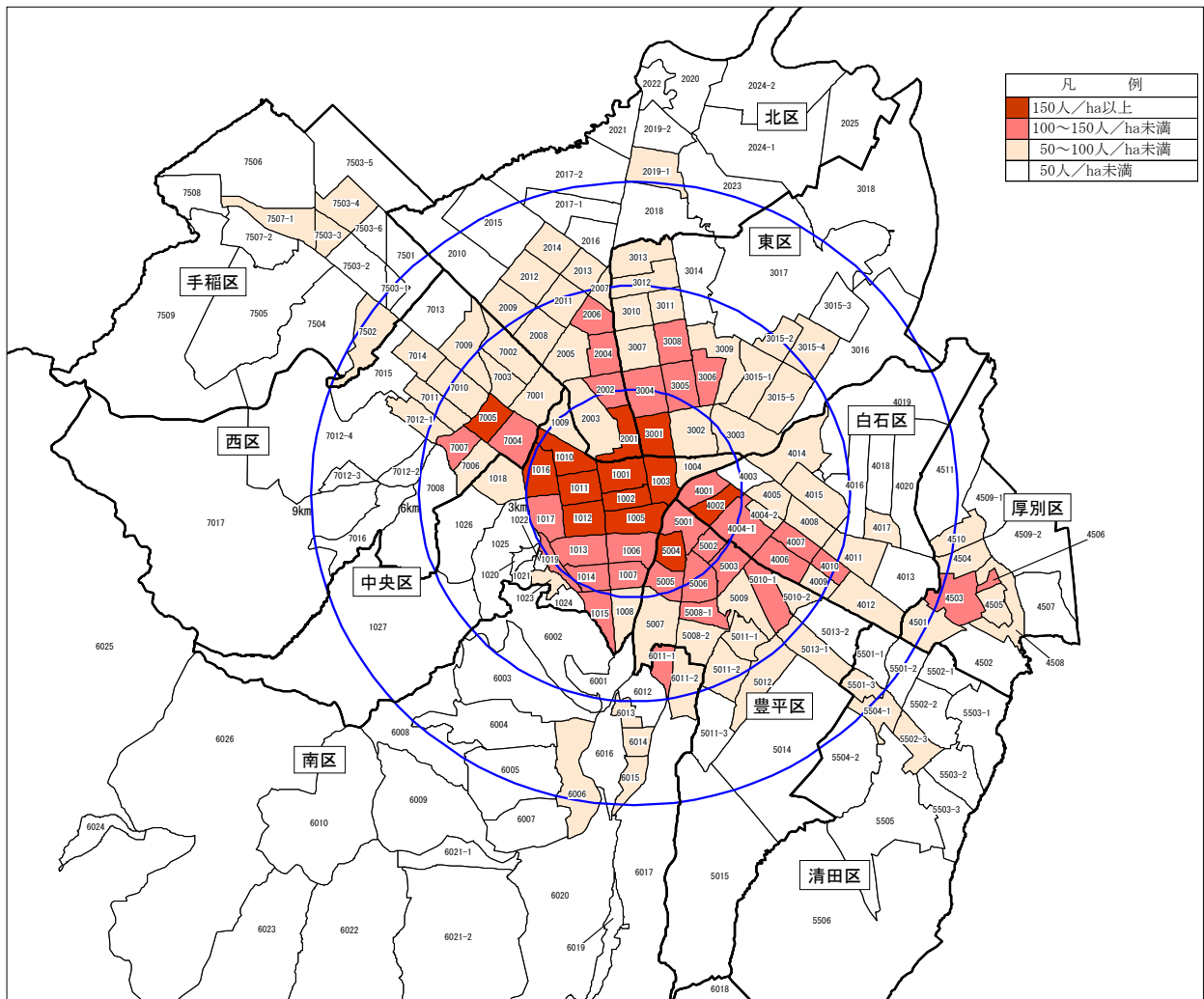
第1-20表 屋間人口密度の高い統計区

屋間人口は「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて推計した。

		(単位 人/ha) 令和2年10月1日現在		
順位	統計区番号及び主な地区・町名	人口密度		
		昼間人口	常住人口	
1	1001 中) 中央地区	803.6	22.9	
2	1002 中) 本府地区	606.9	60.7	
3	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	441.7	157.1	
4	1003 中) 東北地区、東地区	268.7	156.7	
5	1011 中) 大通地区、桑園地区	244.9	127.5	
6	1012 中) 大通地区、西地区	201.0	171.9	
7	1005 中) 豊水地区、西創成地区	198.1	129.4	
8	7005 西) 琴似	191.5	203.1	
9	5004 豊) 旭町、水車町、平岸	177.7	116.0	
10	3001 東) 鉄東地区、北光地区	167.6	144.5	
11	1010 中) 桑園地区	155.2	119.8	
12	4002 白) 菊水	152.1	131.2	
13	1016 中) 円山地区、桑園地区	150.9	172.3	
14	5005 豊) 中の島、平岸	148.8	170.3	
15	2002 北) 幌北地区	146.8	196.2	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第1-14図 統計区別屋間人口密度 (令和2年10月1日現在)



注： 第1-20表参照。
<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

人口密度に対して昼間人口密度が非常に高くなっている。

昼間人口密度が高い統計区は、都心から 3 km 未満や地下鉄沿線の地域で多くみられる。